

ご譲位・改元

皇位継承・改元のときが目前に迫ってきました。五月一日から新しい天皇陛下の御代となり、四月一日に天皇陛下・皇太子殿下のご了解をいただいて政令公布により新しい元号が公表され、五月一日から改元されることになっています。

今上天皇は四月三十日をもって退位、五月一日に新天皇がご即位といわれていて、政府も報道機関も譲位ということばを排し、退位のことばに固執しています。「天皇の意思によって譲位するのは憲法に抵触する」という理屈のようですが、確かに憲法第一条には「天皇の地位は、主権の存する日本国民の総意に基く」と書かれています

ですが、それとともに第二条には「皇位は世襲」とあって、そのために皇太子という地位があり、皇位継承者、次代天皇であることが定められているわけです。想定外のことはとはいえ、退位即譲位となるのは立太子の時点で決定しており、天皇のご意思以前のことです。

五月一日のご即位の日を祝日にするのは当然のことながら、その前後の日も祝日法の規定を適用して休日にし十連休ということ、医療機関、

近江神宮日供神饌講  
新版第三十三号  
平成三十一年三月十日

金融機関、また保育所など、すべて休みとなれば生活に影響が大きく、その対策などの議論もされていますが、ご即位の日は十連休の中の中間の日にすぎないような感覚になりかねません。講員の皆様・崇敬者の皆様はともどもに、今上天皇の平成の三十余年に感謝するとともに、皇太子殿下の新天皇としてのご即位をお祝いいただきたい次第です。



今上天皇の皇太子時代のご参拝 昭和54年8月1日

前号にも掲載しましたが、今上天皇のご即位まもなく近江神宮の御鎮座五十年を迎え、ご即位大礼・大嘗祭と前後して御鎮座五十年式年大祭を迎えました。大祭を控えて五十年祭に際しての御製・御歌が寄せられました。

その後、平成六年に両陛下は近江神宮に参拝されました。それ以前、昭和五十四年に皇太子・同妃両殿下として参拝され、また昭和三十四年には皇太子殿下お一人で、さらにそれ以前の昭和二十二年には、立太子以前の十三歳のときですが、参拝されています。昭和五十四年は琵琶湖国体に合せた行啓、三十四年はボーイスカウトの日本ジャンボリーに合せた行啓でした。

時計学校・保育園五十周年

近江神宮が経営する近江時計眼鏡宝飾専門学校（時計学校）、近江神宮が設立した社会福祉法人・近江神宮仁愛会の経営する、よいこのもり保育園は、ともに昭和四十四年に創設され、今年五十周年を迎えます。時計学校は時計業界の方々のご要望により、その年、



今上天皇陛下ご参拝 平成6年10月26日

近江神宮時計博物館の付属の「専門学院」として発足し昭和五十二年には工業専門



当初の保育園園舎

課程の専門学校として文部省から認可されました。五十年間の卒業生は七百人以上にのぼり、時計店、時計修理店、時計メーカーの技術者などそれぞれの道で活躍し、近年は卒業生の子弟も入ってくるようになりました。

保育園はやはり地元の要望を受けて同じ年、園児数名から出発し、五十年間に千名以上の方々が巣立たれ、初期の卒園者は五十代の半ばになりました。折に触れて近江神宮に参拝し、六月の饗宴祭では最上級の五歳児が稚児として神饌献供などの所役を奉仕してもらっています

かつての近江まつり

四月二十日は近江神宮の例祭。宮中から勅使の参向をいただいて毎年齋行



時計学校教室



されていますが、そのすぐ後の日曜日には地元の子ども神輿が参集して近江まつりが行われています。この現在の子ども神輿の行事が行われるようになったのは昭和四十年代初めからで、それ以前には地元の氏神社三社の神輿六基が参集し、湖岸の柳が崎まで渡御し神幸祭が行われていた時期がありました。昭和二十四年から十年間ほど続きましたが、継続できなくなり、その後現在の近江まつりが行われるようになりました。

春から初夏の祭典・行事

- 三月十七日 午前十一時 祈年祭
- 四月二十日 午前十時 例祭 勅使参向
- 四月二十一日 午後二時 近江まつり子供みこし渡御
- 四月二十九日 午前十一時 昭和祭
- 五月十七日 午前十一時 崇福寺鎮魂供養祭（崇福寺跡にて）
- 六月二日 午後〇時三十分 流鏝馬神事
- 六月九日 午前十時 献茶祭
- 六月十日 午前十一時 漏刻祭
- 六月二十三日 午前十一時 献菓献煎茶祭
- 六月三十日 午前十一時 日供神饌講社大祭 饗宴祭
- 六月三十日 午後四時 大祓式

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>「日供神饌講」ページ



湖岸での神幸祭